

保護司国際研修に参加して

前橋保護観察所 保護司 中村 昭典

平成28年度第1回保護司国際研修に参加の機会をいただき、貴重な経験がたくさんできたことを心から感謝いたします。

実は、私はアジ研という言葉すら知らなかったのですが、日本が犯罪防止に関する取組を世界に発信して国際貢献に努めていること、また国を代表する有能・有望な方々が一か月以上にわたって164回国際研修に参加して真剣に受講している姿を拝見したこと、共に感銘を受けました。

私たちの研修参加の大きな目的は、事例をとおして研修参加者の皆さんに日本の保護司活動を紹介し、犯罪者の更生と犯罪防止の一手段として参考にしていただければ、とのことだと理解しました。早速国際会議場で参加者各国の国旗の並ぶ中、私達が事前に作成したレポートを基に日頃の保護司活動を発表しましたが、発表者の並大抵ではない努力で取り組む姿勢に、各国の皆さんが非常に興味と関心をもって聴講している姿が感じ取れました。質疑応答では「なぜ、家に招き入れるのか?」「なぜ、プライベートな電話番号まで知らせるのか?」と様々な質問が投げかけられました。保護司活動をしていてごく当たり前の行動なのに、何故それほどまでに反応があるのかとその時私自身が一瞬戸惑い、驚いてしまいました。しかし、確かに私も保護司を引き受ける際には、質問のような不安を感じながら臨んだことを改めて思い出しもいたしました。

こうして事例を発表すると、日本にある更生の道を開く保護司制度はすっかり定着し、全国約5万の保護司が日々活動をし、確実な成果を上げていることに改めて誇りを持った次第です。そして保護司研修が終了した時には、研修参加者の皆さんからスタンディングオベーションで私たちに賞賛の拍手を送っていただきました。突然なことに驚き、胸にぐっとくるものを感じたのは私だけではなかったはずです。

語学力に乏しい私であり、海外の方々と一緒に研修を受けるため同時通訳のヘッドフォンを耳に就けた時から動揺をしていましたが、アジ研の関係者の皆さまの温かい心配りで緊張もほぐれ、夕食やその後の懇親会も和やかに各国の方々と交流をし、カラオケで1曲披露させていただいた際にはお世辞でしょうが「ナイス！ボイス」とコートジ

ポワールの方が握手を求めてこられたのには感激してしまいました。

また、宿泊ホテルでは参加保護司の方々とも情報交換でき、連絡を取り合う約束ができたことは、また大きく人の輪が広がったような気がいたしました。

このような機会をいただきました前橋保護観察所長やアジ研の皆さまに感謝申し上げ、これからも保護司活動に尽力していきたいと心に強く決意し帰路につきました。